

ピースボート熊本子どもプロジェクト2016・夏 活動報告



[写真：出航前、博多港国際ターミナルにて。福島の中学生と共に]

■メディアでの紹介

7月29日の出港の様子が、熊本日日新聞（7/30付）に紹介されました。
『南阿蘇の「笑顔」のせて ピースボートが児童生徒を招待』

■プロジェクト主旨

熊本県南阿蘇村の小中学校では、4月に県内広域を襲った震災により、3週間の休校を余儀なくされました。倒壊した家屋、崩落した橋や鉄道、土砂崩れによる通行止め。カルデラに広がる緑豊かで穏やかな村の風景が一変してしまいました。体育館が避難所となったまま授業が再開されるなど、子どもたちの生活も大きく変わり、元通りになるにはまだまだ時間がかかります。

そこで、国際交流NGOピースボートとピースボート災害ボランティアセンターでは、夏休みを思い切り楽しんでもらうために、南阿蘇の子どもたちを東アジアをめぐる船旅に招待しました。日本国内外から集まる乗船者との交流や、訪れる釜山、上海、那覇、長崎でのアクティビティなどを通して、たくさんの友達を作り、多くの希望を見つけてもらいたいと考えています。

■『熊本子どもプロジェクト2016 夏休み』概要

【期間】 2016年7月29日(金)～8月6日(土)
PEACE&GREEN BOAT2016の全行程

【参加児童・生徒】 25名

南阿蘇西小学校より 7名

6年生	大津有生さん	大庭京汰郎くん
5年生	佐藤晴さん	下田伊玖磨くん
4年生	古庄柊瑛くん	
	大庭ももさん	下田真優子さん

ん

南阿蘇中学校より 18名

3年生	渡辺璃音さん	竹中愛美さん	
2年生	阿南咲花さん	家入月花さん	桐原崇くん
	桐原義人くん	後藤心音さん	小堀未宇さん
	興柁大夢くん	興柁竜旺くん	田上柊真くん
1年生	藤岡蓮くん		
	今村文咲さん	植山森くん	栗屋翔馬くん
	小佐井惇一郎くん	平田香鈴さん	峰松拓未くん

【引率】 小山田茉由さん(南阿蘇西小学校教諭) 西郁恵さん(南阿蘇村)
池田昌史さん(南阿蘇中学校教諭)

【同行スタッフ】 市塚藍子 前田亜都沙 畑江奈つ希



【プログラム日程】

日付	活動場所	活動内容（小学生）	活動内容（中学生）
7/29(金)	移動 博多	南阿蘇出発、バスにて博多港へ 博多港にてオーシャン・ドリーム号に乗船、出港	
7/30(土)	釜山	釜山観光（釜山博物館、チャガルチ市場、国際市場など）	釜山歴史探訪（朝鮮通信使歴史館、釜山近代歴史館など）
7/31(日)	洋上	テーブルナプキンアート教室、スポーツ大会、夏祭りなど	中国について学習、卓球大会、韓国の伝統的な遊び体験
8/1(月)	上海	上海観光（上海ヒルズ、上海動物園など）	崇明島・東灘湿地公園を訪問（自然学習、サイクリングなど）
8/2(火)	洋上	壁新聞づくり、日韓小学生交流など	日韓青少年交流・環境学習、南阿蘇に関する発表、操舵室見学
8/3(水)	那覇	美ら海水族館見学	南部戦跡をめぐる平和学習（ガマ、平和祈念公園、ひめゆりの塔など）
8/4(木)	洋上	世界のダンス、英会話レッスン、操舵室見学、また会おうね会、など	集合写真撮影、日韓青少年文化交流
8/5(金)	長崎	長崎市内観光（歴史文化博物館、ペンギン水族館など）	1年:雲仙地獄と小浜温泉訪問 2,3年:軍艦島周遊と長崎観光
8/6(土)	博多 移動	博多港にてオーシャン・ドリーム号を下船、バスにて移動 南阿蘇帰着	

■PEACE&GREEN BOAT とは

PEACE&GREEN BOAT は、「平和で持続可能なアジアの未来」を目指して、NGO ピースボートと韓国のNPO「環境財団」が共同でコーディネートする船旅として、2005年から始まった企画です。日本と韓国からそれぞれほぼ同数の参加者がひとつの船に乗り込み、アジア各国を巡りながら、寄港地での交流プログラムや船内生活をともに体験します。



■旅の記録

7月29日（金）【 出発 / 博多 】

朝10時、南阿蘇中学校のお隣にある村役場長陽庁舎の駐車場に集まった25名の子どもたち。大きな荷物をバスに積み込み、見送りにきた保護者に手を振って、博多に向けて出発しました。予定通りに到着した博多港では、さっそく福島県南相馬市の中学生と合流し、緊張しながらも自己紹介ゲームに取り組みました[写真]。出国、乗船、避難訓練、夕食、ホームルームを忙しくこなしている間に、乗客約500名を乗せたオーシャンドリーム号は博多から出港しました。



7月30日（土）【 釜山 】



朝起きると、船の外に広がるのは最初の訪問地・釜山の景色。子どもたちは初めて見る韓国ウォンを財布に入れて、街に繰り出しました。小学生は、博物館や公園を巡る釜山観光と活気に満ちた国際市場でのおみやげ選びを楽しみました。中学生は、豊臣秀吉の時代から始まる釜山と日本の交流や植民地支配の歴史をまなぶ「歴史散歩」に参加。上陸行動を終えて戻った船内では、韓国からの乗客約500名とともに出航を祝いました。この出航式では、渡辺璃音さんと竹中愛美さんがスピーチし、大きな拍手に包まれました。

7月31日（日）【 洋上 】

大海原を進む船内で過ごす初めての日。小学生は英会話やテーブルナプキンで動物の形をつくるアート、スポーツ大会、夜の夏祭りなど盛りだくさんの一日でした。

中学生は、翌日訪れる上海について学んだり、伝統的なゲームを韓国の高校生から教えてもらい一緒に遊ぶ交流会で盛り上がりました。言葉や地域を越えてどんどん仲良くなっていく姿に、子どもたちの純粋さとたくましさを感じました。



8月1日（月）【 上海 】

2つめの寄港地・上海。今日も真夏の天候です。小学生は高層ビルが立ち並ぶ街の中心部で中華料理を食べた後、上海ヒルズと呼ばれる建物で地上97階の展望台から上海を一望。最後に動物園でパンダや揚子江に住むというワニを見て楽しみました。中学生は、ラムサール条約に登録されている崇明島・東灘湿地公園へ。フェリーや電気自動車に乗ったりサイクリングをしたり、広い自然保護区でのびのびと、自然エネルギーや環境保護について学びました。



8月2日（火）【 洋上 】



今日でこの旅も折り返し。船内では各種交流が続きます。小学生は、スタッフにインタビューして壁新聞の記事を書いたり、韓国の小学生達とゲームをしたりと船内の人々と親睦を深めました。中学生は韓国の高校生と共に、アジアの環境問題について考え、生態系平和マップの製作や、自分ができる5つの取り組みを書き出すなど、問題を学び具体的な行動につなげる機会となりました。

またこの日、引率の池田先生を中心に、震災後の南阿蘇村の状況について発表をしました。日韓とわず多くの方が集まり、中学生が語る震災当時の状況に深く聞き入っていました。その後、中学生は特別に操舵室を訪れ、窓から見える景色や操縦に使う計器などを大はしゃぎで見学しました。



8月3日（水）【 那覇 】



3つ目の寄港地・那覇。小学生は本島北部にある美ら海水族館を訪れ、世界最大級の水槽の中を悠々と泳ぐ沖縄の海の生き物たちを眺めました。中学生は、平和祈念公園、ひめゆりの塔、魂魄の塔、米須海岸など本島南部に点在する戦跡を平和ガイドとめぐり、71年前の戦争について学びました。夕方には船内で八重山の伝統舞踊を鑑賞し、独特な歴史や文化をもつ沖縄を満喫しました。

8月4日（木）【 洋上 】



船内の生活にも慣れ、笑顔を交わす仲間も増えた洋上で過ごす最後の日。4回目となった最後の日韓青少年交流イベントでは、韓国の高校生は伝統的な歌や楽器の演奏、日本の中学生は出港から毎日練習してきたソーラン節を息を合わせて披露。その後お互いに教えあい、みんなで一緒に歌や踊りを楽しみ達成感を味わいました。

一方、小学生は、午前中には世界のダンスの要素を取り入れた体育と音楽が混ざったようなピースポートならではのアクティビティに参加。午後はゲームを交えた英会話レッスンで盛り上がり、操舵室見学にも訪れました。夜には、ちょっとおしゃれをして夕食を楽しんだあと、まわりの乗客に誘われて、社交ダンスにも参加しました。
みんな、とても充実した一日を過ごしました。



8月5日（金）【 長崎 】



最後の訪問地・長崎では、中学1年生が少し足を伸ばして雲仙地獄と小浜温泉を訪れ、火山エネルギーの利用方法を見学。中学2・3年生は軍艦島をフェリーから見学したり、グラバー園や原爆資料館を訪れたり、近代日本の歴史に触れました。小学生は市電やバスを乗りこなし、歴史文化博物館で糸撚りを体験したり、水族館でペンギンを見たり、名物の皿うどんを食べたりして長崎を満喫しました。夜はみな一生懸命荷造りをしました。

8月6日（土）【 博多 / 帰着 】

朝、船は博多港に到着。新しくできた友だちと写真を撮りおわかれを告げて、おみやげで少し重くなった荷物をもって下船しました。9日前に乗船したときよりもリラックスした表情で子どもたちはバスに乗りこみ、家族が待つ南阿蘇へと帰り着きました。



■参加者の声

他国の方々と交流ができ、自分にとっても人との「繋」というものが分かったと思います

日本と韓国は仲があまりよくないと聞いていたけど、たくさんの友達ができまし

僕は将来料理人になりたいと思っているのでピースボートで料理をつくりたいです。

このクルーズに乗れて本当に良かったって思った。絶対またこの船に乗りたい。本当にかくさんの良い思い出ができました。

■引率の先生の声

池田昌史先生（南阿蘇中学校教諭）

上海に降り立った際、生徒は皆マスクをし、二枚重ねをしている生徒さえいました。おそらくテレビやインターネットで仕入れた知識による先入観からの行動であったろうと思います。でも上海の空気は(少なくとも私たちが訪れたところは)澄んでいて、いつの間にかマスクをしている生徒は一人もいなくなっていました。私たちは偏った情報から偏見とも言える誤った知識を身につけていること実感しました。

生徒は今回の旅で様々な事を自分達のもので、耳で、心で学びました。それはテレビやインターネットでの誰かの考えによるものではなく、自分が感じ、考え、行動したこととしていつまでも残っていくことでしょう。

「人」との出会いも同じです。韓国の方も中国の方もとても自然体でした。と言うのは、言葉が通じないだけで、何も私達と変わらないという当たり前のことにあらためて気付かされました。たくさんの韓国の子どもたちやクルーの方々と仲良くなることのできた生徒たちがその事を一番感じていることでしょう。

類い稀な経験をさせていただいた関係者の方々に感謝させていただくと共に、経験した事を発信できる子どもたちを育てていかなければならない、と自分の使命を感じた旅でした。

■同行スタッフの声

子どもたちが日に日に外向的になっていくのがわかりました。毎日クルー（乗組員）に英語で話しかけたり、同年代の韓国の子どもたちと自然と仲良くなって友だちができたり、同行したスタッフに対しても急速にうち解けてくれました。船内そして寄港地で、自らの目や鼻や耳や肌で感じたことをきっかけとして、彼らの今後の選択肢が増えてくれたら嬉しいです。

前田亜都沙
(小学生担当)

畑江奈つ希
(中学生担当)

はじめは緊張していた子どもたちも、2日目にはすっかり船内生活に慣れ、毎日の新しい出会いを心から楽しんでいるのがわかりました。普段の生活では触れ合う機会の少ない多世代の人々、そして韓国の若者との交流。身振り手振りを交えながらどんどん新しい友達を作っていく純粋さとエネルギーに感動しました。「今日は韓国の□□ちゃんと遊ぶんだ！」と笑顔で言いに来た子どもたちの笑顔がとても印象的でした。旅の終わりには、「この旅を通して友達がたくさんできた」、「もっと世界を旅してみたい」、「新しい将来の夢ができた」と話していました。

たくさんの出会いと初めての経験が詰まったこの9日間は、子どもたちにとって大きな財産になったのではと思います。

南阿蘇村教育長からのメッセージ

熊本地震発生から心身ともに癒えぬ中、ピースボート災害ボランティアセンター様からお声をお掛けいただき、今回の「釜山、上海、沖縄をめぐるショートクルーズの旅」を企画され、南阿蘇中生徒、南阿蘇西小児童総勢26名をご招待いただき、誠にありがとうございました。

子どもたちの心の癒しと同時に小・中学生のときに海外の旅ができる喜びと見聞を広め、それぞれに最高の思い出ができたのではないのでしょうか。参加した子どもたちからも感謝の気持ちでいっぱいであることも報告いただいたところです。この経験を糧に1歩1歩前向きに生きる気持ち忘れず、南阿蘇村の将来を担っていただく子どもたちを大切に見守っていきたいと痛感しております。

さて、南阿蘇村は、着実に復興・復旧に向けて前進しております。併せまして各学校と連携して子どもたちの心のケアも継続して行い、1日も早く通常の学習・生活環境に戻れるよう教育委員会としても努力しているところです。

最後になりましたが、このような貴重な経験をさせていただいた児童・生徒にかわりまして関係各位に感謝申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

藤岡 孝輔 氏

熊本子どもプロジェクト 2016 年夏休み・活動の記録

【発行】国際交流 NGO ピースボート / 一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター

【編集】市塚藍子、上島安裕

【写真】PEACE BOAT、NPO 南相馬子どものつばさ、片岡和志

【発行日】2016 年 12 月 1 日

この刊行物に関するお問い合わせはピースボート事務局までお願いします。

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-13-1-B1

TEL: 03-3363-7561 FAX: 03-3363-7562

E-MAIL: info@peaceboat.gr.jp

The logo for PEACE BOAT, featuring the words "PEACE" and "BOAT" in a bold, stylized, blocky font. The letters are white with a thick black outline, set against a dark background.